



防衛大臣政務官
衆議院議員

日本の未来のために
教育について

千葉県私立中学高等学校協会 会長
学校法人 聖書学園千葉英和高等学校 校長

小林鷹之 × 大羽克弘

TAKAYUKI KOBAYASHI

KATSUHIRO OBA

ただ、戦後の教育制度のあり方については、個性を尊重し、育むこと自体は非常に重要だと思っ一方、社会との結び

テムを振り返ると、江戸時代に寺子屋、藩校、私塾があつて、階級の差なく皆が読み書きそろばんを習得したことが、明治維新後に日本が急成長できた要因の一つであり、その後の高い教育水準や技術立国日本の礎になったのだと思います。

小林 さて、日本の教育システムを振り返ると、江戸時代に寺子屋、藩校、私塾があつて、階級の差なく皆が読み書きそろばんを習得したことが、明治維新後に日本が急成長できた要因の一つであり、その後の高い教育水準や技術立国日本の礎になったのだと思います。

大羽 ありがとうございます。本校は、私の祖母の叔父である仲田重治が、ホーリネス協会を創り、1946年に重治の次男の羽後と私の祖父の大羽鶴が、元陸軍航空隊下志津飛行学校跡地に聖書学園を創立して現在に至っています。

道徳も重要ですが、一方で、世界には様々な価値観が存在しています。これからの

大羽 教育勅語の基にあるのは、『論語』です。論語では親や社会が規範となっていますからね。宗教も同様で、聖書にも父母を敬うという教えがあります。

例え、戦前の教育方針であった「教育勅語」時として批判されることもありましたが、「親を大切に」「兄弟仲良く」「目上の者には敬意を払う」といった日本の伝統的価値観に照らすと当たり前に見えることが書かれています。近年、驚くような社会事件も生じる中で、こうした当たり前の規範が薄れつつあるからこそ、しっかりとした道徳教育を行うべきです。

つきを教えていく意識が不十分であると感じます。



1 安全保障委員会にて、政務官として答弁
2 平成28年度自衛隊記念日観閲式(出典:陸上自衛隊HP)
3 各国要人からの表敬(右:インドネシア、左:ジブチ)
4 潜水艦「せいりゅう」命名式・進水式でテープカット
5 防衛大臣感謝状贈呈式懇親会
6 地元小学校の国会見学は元気の源!

小林鷹之 Profile
東京大学法学部卒業。ハーバード大学行政大学院修了。財務省課長補佐、外交官を経て現在衆議院議員2期目。防衛大臣政務官、衆議院安全保障委員会委員、自民党青年局顧問等を務める。一女の父。

地元事務所
〒276-0033
千葉県八千代市八千代台南1-3-5 YYビル1階
TEL 047-409-5842
FAX 047-409-5843

国会事務所
〒100-8981
東京都千代田区永田町2-2-1
衆議院第一議員会館417号室
TEL 03-3508-7617
FAX 03-3508-3997

Facebook www.facebook.com/hawk.kobayashi
twitter twitter.com/kobahawk
HP kobayashi-takayuki.jp

ミニ集会
小林鷹之と語る会
小林鷹之事務所では、小林本人による国政報告と皆様からのご意見を伺うためにミニ集会の開催をお願いしております。5人以上であれば、どこへでもまいりますので、右記の地元事務所までご連絡ください。

国会見学
小林鷹之事務所では、国会見学の受付やルート相談も承ります。見学をご希望される方は、団体名、代表者名、参加人数(男女別、大人子供別)、参加希望日時、ご連絡先を右記の国会事務所までご連絡ください。

ボランティア募集
小林鷹之事務所では、小林鷹之の活動をお手伝いして頂ける方を募集しています(広報紙配布、ポスター貼り、イベントのお手伝い等)。また、小林鷹之のポスターをご自宅や会社に掲示させて頂ける方も、併せて募集しております。ご連絡は地元事務所までお願い致します。

防衛大臣政務官
衆議院議員
小林鷹之
国政報告

小林鷹之からの手紙
Vol.35
討議資料
自民党千葉二区支部小林鷹之事務所発行
(千葉市花見川区・習志野市・八千代市)



対談

小林鷹之 × 大羽克弘



らなくてはいけないことは、小さい頃から、自
国の文化、国語や歴史を学ぶだけではなく、そ
れと同じように他国の文化、言語や歴史を勉
強し、相手の立場を認めていくということでは
ないでしょうか。キーワードは「多様性」です。
宗教や文化など、個々人の異なるバックグラウ
ンドを互いに認める心の余裕が必要だと思っ
ますね。

小林 島国である日本の成り立ちを考えれ
ば、同質性・均質性に富んだ国であることは自
然のなりゆきです。しかし、国際社会との共生
を今後ますます意識していかせざるを得ない
中で、多様性を互いに認識し、認め合っていく
ことは今後の社会の流れだと思えます。その
意味で教育のあり方は非常に重要です。

いわゆるインクルーシブ教育(※)もその一つ
ですね。先日、『みんなの学校』という映画のモ
デルとなった大阪の大空小学校の校長先生の
話を聞く機会がありました。特別支援学級を
設けることなく、障害を持つ子ども達や特別
な配慮を要する子ども達が健常者の子ども
達と同じ場で過ごすことにより、子ども達が
主体的に互いの立場を理解し合い、共生の大
切さを学んでいく話を伺いました。また、八千
代、習志野、千葉には外国人のお子さんも多
いですよね。様々な価値観に対して寛容であるべ
きですし、そのための教育も必要です。

※障害のある子どもを含むすべての子どもに対して、
適切な教育支援を「通常の学級において」行う教育
大羽 子ども達の評価方法も、一律に数値
化するだけでなく、もつと工夫があつて良いの
ではないかと思えますね。

(ここで、英和高校副校長の大羽聡先生も参加)
大羽聡 一人の先生が40人の子どもの教え
て、これだけの成果を出す日本の教育は素晴
らしいし、効率化された教育という意味では日
本は世界のトップクラスにあると思います。し
かし、効率的に点を取るだけではなく、豊かな
発想力を養うためには新たな取組を行って
いくことが大切です。その



▲1946年創立時と
現在の千葉英和高校

際、問題になるのは評価
する側の教員の能力で
す。教員に十分な力量が
なければ、子ども達を適
切に評価することはで
きません。

小林 そうですね。そ
の意味では教員の力量
もさることながら、家庭

日本の未来のために「教育について」

における(私も含めた)親の意識向上も大切で
すね。

大羽聡 本来、子ども達への教育は、家庭・
地域社会・学校が適切な役割分担をしてなさ
れるものです。しかし、社会構造が変化する中
で、家庭教育や地域社会教育が崩壊しかけて
います。結果として、学校教育に大きな負担が
かかっている現状を何とか改善する必要があ
りますね。

大羽 ところで、小林さんは米国留学を経
験されています。日本と米国との教育システム
の違いについて何か肌で感じたことはあります
か？

小林 私が二十代半ばの頃に留学したの
は、米国の大学院でした。クラスは50人の構
成。殆どが米国人。最初の授業で先生が質問
した時に、45人が挙手した衝撃は今でも忘れ
られません。手を挙げなかったのは自分を含め
5人だけ。うち3人がアジアからの留学生。日
本人(私)と韓国人と中国人でした(笑)。授業
に対して主体的に、積極的に参加しようとす
る姿勢にカルチャーショックを受けました。欧
米の教育では「自らの意見を持たないことは、
そこにいないのと同じ」とみなされるため、主
張することが了とされるのです。

大羽 日本人は主張することが苦手とさ
れていますよね。プレゼンテーションを教科に
入れていくといいですね。

小林 私もそう思います。今の日本の教育
に伸びしろがあるとすれば、いわゆるアクティ
ブ・ラーニングではないでしょうか。つまり、自
分が主体的に意見を持ち、発信すること、そし
て議論を通じて異なる意見と折り合いをつけ
ていく姿勢を育む教育ですね。言い換えれば、
詰め込んだ知識をどのように社会に還元して
いくのか、ひいては社会の中で自分をどう位置
づけていくのかということですね。

また、アメリカの大学院では「ソクラテス・メ
ソッド」という教育も経験しました。先生が
一人の学生に対して答えられなくなるまで質
問し続けます。答えられなくなったら次の学
生に質問していく、非常に緊張感のある授業
です。こうした教育のあり方も参考にしながら
日本の大学教育をより良いものへと進化さ
せていくべきです。



大羽聡 日本の高
校生の基礎学力は世
界最高水準であるに
もかかわらず、その後
の伸びが止まってしま
う傾向があります。日
本の大学生は楽しい生
活を満喫しながら卒
業できてしまいます

が、海外はそう
はいきません。

日本の大学は卒
業条件をもっと
厳しくすべきで
すね。

小林 アメリ
カの学生は、勉
強量が半端じゃない。24時間開いている大学
図書館もあります。予習・復習の量が膨大とい
うこともありますが、学生自身の目的意識も
高いように感じました。

それに加えて、アメリカの大学教育で良いと
思う点は、リベラルアーツ、いわゆる一般教養
を徹底的にやることです。ピラミッドも、土台
が広くしっかりしていないと石を高く積みこ
とはできません。それと同じで、これからの時
代、より深い専門性が求められるからこそ、基
礎となるリベラルアーツ教育を日本の教育課
程においてももつと取り入れていくことが必
要だと私は考えます。

大羽聡 同感です。受験を意識せざるを得
ない今の環境の下では、簡単なことではありま
せんが、リベラルアーツ教育を大学よりももつ
と早い段階から実施すべきだと思います。

小林 最後に、我が国が世界に誇る資源は
「人」です。日本の未来を担う子ども達は宝で
あり、無限の可能性を持っていますよね。昨今、
「子どもの貧困」とか「貧困の連鎖」という言葉
をよく耳にしますが、こうした負の連鎖を断
ち切るのは政治の責任です。どんな環境に生ま
れ育っても、子ども達には質の高い教育の機
会を十分に確保していかねばなりません。未
来の社会への投資です。子どもたちが大きな夢
と希望を抱き、可能性に挑戦していくための
心身を育んでいけるように、よりよい教育シス
テムの構築のために力を尽くしていきたいと
思っています。本日はありがとうございました。

紙面の都合上、対談の内容の一部を抜粋して掲載
させて頂きました。

